

主船第二号四号

長官 中田

副官 森田

課長

下係

豆州天城山狩野川以助未洪水二月

膠材流散等々義海属

七月廿六日之暴風雨云豆州天城山狩

野川以助等洪水流る膠材流散及因

海損所出未々義海同所出強及在

横濱製造船所膠材課負分別破之通

届出中其詳細々義海課追々届可

仕所損出未々此等上申仕置也

主船局長

十一年八月九日 海軍少書記官石川利雄

横濱製造船所長

往入第千九百六号

六六

貴州省立公署

往 編 堤 八十三

0155

杉山元

海軍中佐 遠藤 武彦

海軍大輔 川村 純義 代理

海軍少将 中牟田 倉之助 殿



0156

時方有暴風雨、付此未水害も有る、
 材之義、た山路、有材、
 アバ水門、
 水高ハ、
 其後、
 程、
 年、
 馬、
 門、

六十七

貴良親王公行

0157

三月人カヲ限リ防備ヲ弛メ忽チ其破ラ
 水軍暫時こころ凡百皆移レ土手防備未
 成中其夜甘雨周場ハ一時、洪水押込其
 他石碇土手ヲ脇上ル、方々土手切レ所
 當處是るも老水落込兩切レ所乏水力
 繁留置其材之内土手割リ多ク凡三箇中
 以内も強サ切リ所材亦多ク其然ハ要將
 野川口迄傍る流込ニ於テ流材ノ多ク凡
 集メ其見込る全ク流失ル其水其智ハ無
 故ニ土手防備其切込碇ハ故一其義ハ詳細
 不備之上其追テ其處のハ進メ其防備其不
 前一條事件中進退其其城山へも進
 報知及ヒ其付表通り其處其日所カ其出

与存水増長は甚しく前年より増し
一、江、浦、方、平水、台、四尺、も、水、増、し、水、道、之、
材、浮、出、一、水、の、無、速、に、引、揚、方、子、配、以、毎、一、流、
米、に、五、三、也

一、橋、橋、防、松、以、方、所、其、日、所、言、七、尺、程、平、
水、台、出、水、の、高、深、水、の、出、水、を、熱、水、之、高、井、に、
平、水、台、を、又、三、尺、五、寸、を、漏、水、の、お、集、水、は、甚、
し、其、地、山、谷、所、の、水、涵、り、中、出、幸、便、に、付、中、
進、水、の、前、年、三、尺、一、寸、五、分、高、水、の、可、然、水、中、之、
水、集、水、高、水、涵、り、中、進、水、也

沼、澤、航、切、田、場、防、

十、年、七、月、廿、七、日

水、材、課

水、材、課

六、十、八

水、材、課

0159

止石詰土自之方ハ吳糸無之ヲヤ

相対有送舟耳

0160

六十九

村列聖遺身耳

海面へ流れ抄りて移殖し得る津國揚るるも
日船清水も流れ抄りて揚るる抄りて不抄りて
抄りて抄りて末夕詳細に諸知悉くしるま法揚
下りて抄りて長細く調へて揚りて抄りて出た
向出水し抄りて揚りて揚りて揚りて揚りて

十年七月廿日

寺多移

形抄

抄

三浦山法
形抄

退るる月三法も流れ抄りて揚りて揚りて揚りて
揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて
揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて
揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて揚りて

流找る方ハ極上ノ流通ニ爲ル者ナリ且昔々年辰
口付以テ指野川爲ノ下流ニ水多ク年水有
之ニ余亦極勝大仁國揚子江爲ノ水多ク年水有
潮水押入ル位ナリ

一昔々地極重土ナリ且用成少左揚子江爲ノ水多ク
其他可破損而ナリ且中別ナリ

村列在送舟耳

0164